①手順

ア 語の発音を聞く。——音声の image を作る。

イ 語の意味を確認する。——語の概念と音声を関係づける。

ウ 発音をまねていう。——音声の image に従って発声器官を動かす。

エ 綴り字を見て発音を聞く。——綴り字の image を作り，音声の image と連結させる。

オ 語を読む。——音声と綴り字の image を発声器官と連結させる。

カ 語を綴る。——音声と綴り字の image の上に書写器官を参加させ連結をはかる。

②方法

・blank の補充（例）blackb…d ・単語の spelling

・連結された2語以上の spelling

③指導上留意すべきこと

ア 活動は手順に従って流動的に行なわせる。

イ 視覚器官が活動の主体であるので， flash card や OHPなどの視覚教具を機能に応じて活用する。

（例）flash card……表面 l i brary 裏面 図書館

OHP ……penc ← masking

ウ 視覚・聴覚と運動感覚の連結を強化する。

エ 音声と綴り字の規則性に気づかせる。

（例）母音字＋子音字 ＋e→ i—e [ai], a—e [ei]

oo→[u] [u:] —igh(t)→[ai] など，

オ 誤りの原因を追求し頻度の高いのは全体指導する。

・聴覚的な誤りの例 first—fast, thing—sing

・視覚的な誤りの例 friend—freind, work—walk

・類推上の誤りの例 before —befor, until—untill など，

カ 語いが増えた段階で語の整理をさせる。

（例）mind, find, kind all, call, tall, small

キ 弱音で発音される語や連音（liaison）は単語だけの活動では不充分であり， 2語以上の word group, 文単位での指導が望まれる。

ク 反復による強化の必要性は， 次表の spelling についての把持率が示す通りである。

a. should b. health c. expression の正答率調査

	その時間の終り	4時間後	24時間後	10日後	2カ月後
a	62%	52 %	45%	27.5%	15 %
b	62%	62.5%	65%	37.5%	12.5%
c	67%	62.5%	57%	30.0%	5 %

この事実から，基本語は意図的に oral practice の中でも絶えず確かめが行なわれるよう配慮しなければならない。

（例）T: I like French dolls, d-o-l-l, dolls, Do you know ?

P: Yes.

T: That's right. Now, Let's say all together, d-o-l-l.

P: d-o-l-l, doll

T: Good. Then write the word with your finger.

※1音節5文字内外の単語ならば oral による spelling drill も抵抗はないと思う。

(3) dictation

dictation は自己の意志や行動を直接表現する活動ではないが，他の三技能をより強化する役割りをもつと同時に，話者の意志を正しく文字に表現する作業である。従って適確な aural comprehension が前提となる。

①活動の展開

次の step をふんで活動を質的に量的に高めてゆく。

ア 文字を聞いて書き取る。

イ 語，句を聞いて書き取る。

ウ 文を聞いて文中の語句の穴埋めをする。

エ 文を聞いて全体を書き取る。

オ paragraph を聞いて書き取る。

②指導上留意すべきこと

ア material は既習の内容で頻度の高いものを選ぶ。

イ 聞かせる英文は慣れるに従って natural speed に近づけ回数は3回以内とする。

ウ 書き取る英文は breath group ごとに提示する。

エ 可能な限り native speaker による録音教材を活用する。

オ 正しい aural comprehension が前提であり，文の構造や文中における弱音や連音が適確にとらえられるように慣れさせておく必要がある。次の例は単語の音だけに頼った dictation の結果である。

We'll make an orchard.→Will maker nor child.

カ 完全無欠な dictation の結果を要求することは，いたずらに生徒を委縮させ，また言語活動の趣旨からもはずれるように思う。不備な点が若干あっても，内容を適切に受けとめ，文字として表現されていれば，個々の点については教師の軽い support にとどめ，It's good. で答えてやりたい。次例を参考にすると，

提示英文：My mother likes fruits very much.

(situation)

She eats two apples every morning.

(dictation の文)

生徒 A: She eats two appls evely morning.

生徒 B: She eats to apples every morning.

この場合誤りの数の少ないB生徒より，むしろA生徒の response を評価してやりたい。